

堺上保育所へ楽器

阿蛭さんが寄付

保育所での幼児保育は音楽やリズム遊びが指導の主体となっていて関係で、上堺保育所では楽器類が不備で苦勞していました。去る七月二十七日新島の阿蛭信太郎さんが楽器購入費として一万円を寄附されました。

同保育所ではさっそく大太鼓(合付)一、木琴三、シン

バルー、タンバリン一を購入してリズム遊びに役立てています。幼児たちは新しい楽器が大よろこびで、リズム遊びがとて楽しいとハシャイており、保母さん方も一層力がいると言っています。

阿蛭さんの篤志は関係者を初め上堺の住民からいたく感謝されています。

ふる里の話題

郷山狐

(横芝)

その頃の橋場

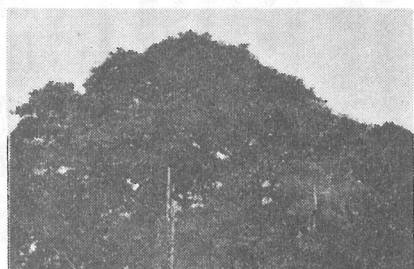
昔、と言っても明治の御代になってからのことです。

栗山川がまだ曲りくねりながら流た、川底を泳ぎまわる魚も手にとるように見られる程きれいに澄んでいました。

その頃は汽車も通らず、栗山川を上り下りする川舟と、駄馬という背中に振分に荷物を付けた馬だけが輸送機関でした。旧栗山橋の下は船着場になっていて、此の付近の米や野菜の集散地でしたので毎日のように駄馬や荷舟が此処に集ってききました。月に一度位は人力車も見かけました。

二軒とも大変繁昌していましたが、上州屋の裏庭続きの松林の辺りを酢屋の郷山と呼んでいました。その真中は高さ十五メートル周囲約六十メートル程の丘になっていて柴草が芒々と繁り、頂上には一本の樟が生え、その根元には何か石碑が建っていました。この石碑は昔の人が願ひ事が総て叶ったので建てたものと言われている。阿蛭さんが誰が言うともなく此の丘に狐が住んでいる、と噂が立って

びながら両手を振まわしている者があります。よく見ると仲間の船頭の三吉でした。「おい三吉、どうした、」と駈けよって見ますと、辺りには何もない只の草むらだけですが、「ハハア狐に化されたな」と思いましたので三吉の背中をどしんと突いてやりますと、「おやー俺は何でこんな所にいるんだらう。いま栗山川で魚をつかまえていた筈だ」と言っびびりしたように周囲を見まわしています。



しかし道路等はとても狭く、せいぜい一間(二メートル弱)位で、これが横芝村の唯一本の表街道でした。「この舟着場から仕置山(農協本所の辺りで刑場のあった所)と言われている、」までは松林が続く、その両側は田圃と畑が広がり銚子街道沿も僅かの人家がちらほら見えるだけでした。その人家の中で船頭さんや馬子さんを相手に商売しているお店が二軒ありまして、一軒は船越屋と言っわらじや大福餅等を商う茶店でした。いま一軒は上州屋と言っ酒や肴を商い、女中さん二人程いる居酒屋でしたが

狐ばかりした?

こんな話があります。

船着場まで米を運んだ船頭の藤八という人が「さあ一仕事すんだ、上州屋で一杯やっか」と松林をい歩いて来ますと酢屋の郷山で、「お、深い、お、冷たい」と大声で叫

を開くようになりました。それから何年かたつて銚子街道も少しは広くなり、人家も大分増えて船着場の近くから栗山本郷を抜けて北清水までの山路にも途中に茶店が出たりして酢屋の郷山附近はいくらかにぎやかになってきました。月に一度位しか見かけなかった人力車も度々見かけるようになり、船越屋は店も広げ、店先のあんどんもホヤランブに変わりました。上州屋は店をたたみ何時か此処に居なくなり、その跡に多古の方から土屋某という人が移って来ました。いままでの家を解体して筏に組み栗山川を下って来たということですがその頃としてはなかなか立派な建物でした。

そのように周囲は変わっても郷山は元のままで、樟は大きくなって夏などは格好の陽かげになり子供達の遊び場になっていました。

昭和になってからのこと、此の付近に不幸が続いたので昔の話を聞いていた年寄りの人達が「郷山狐の供養をして見よう」というので、赤いのぼりを建てたり、赤飯や油揚げを供えたりして祭りをしたことがありました。御利益のことは聞きませんがその辺りが益々繁昌しているところを見ますと、さっそく御利益があったのだと思います。(此の物語りは、東町方面の或古老の方からお聞きしたものを広報係が取りまとめました。樟の根元に建っている碑には「瘡守稲荷大明神、明治二十四年九月、当町川島彦三郎、宮沢某」と刻んでありました。そしていま一つの碑には梵字の下に「奉納六十六部供養宝塔所願成就、信必之願主、宝永三丙戌天、三月吉日横柴邑永三丙戌天、三月吉日横柴邑談話」が刻んであり、古老の談話が裏付けられるように思われました。写真は今でも狐らしい住みそうな樟の老樹。矢じるしは瘡守大明神の碑。

「三吉が郷山の狐に化された」というので暫らく酢屋の郷山に入る人はありませぬ。上州屋もあんどんに灯を入れる頃になると戸を締めてしましました。ところがこれは、三吉が運んで来た手間代を落してしまつたので女房に叱られるのが恐しくしてわざと狐に化されたふりをしてい

かさもり稲荷

或年のこと此の近くにおで

が流行してみんな若しんで

いました。そのうちに郷山に

願をかけると思ふが叶うとい

うことを聞いていた人達が先

立になって樟の下に赤飯、餅

魚等を供えてお祈りをしまし

たところ、軒並というくらい

流行って行ったので、或人がお

礼の碑を建てようとしてしま

した。御供物の中で魚や赤飯

が一番はじめになくなって

いたので「さ」と郷山の狐の